

その他

## 新型コロナウイルス感染拡大下での 在宅看護学実習における学内代替実習の取り組み

林 恵<sup>1)</sup>・反町真由<sup>1)</sup>

### Effort of the substitute home care nursing practicum at the school during the COVID-19 pandemic

Megumi HAYASHI<sup>1)</sup>・Mayu SORIMACHI<sup>1)</sup>

キーワード：新型コロナウイルス感染症、在宅看護学実習、代替実習

#### I. はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、2020年4月から予定していた在宅看護学実習は予定通りの実施が不可となった。社会の情勢と実習先の療養者への負担を考慮し、文部科学省及び厚生労働省の事務連絡（2020年2月28日付）<sup>1)</sup>を踏まえて、6月から全て学内における代替実習とした。年度が改まった現在も新型コロナウイルスの変異株などへの懸念から、感染拡大に留意しながらの実習となり、通常通りの実習は行えない状況が続いている。昨年度の学内における代替実習の取り組みを振り返り課題を明らかにすることは、学内の代替実習となっても学生に実習の質を担保する方法を考えることにつながるため、ここに報告する。

#### II. 在宅看護学実習の実習目標

本学の在宅看護学実習における実習目標は、以下の通りである。代替実習であっても、実習目標の変更はせず、従来の目標を達成できるように実習内容を検討した。

1. 在宅看護の場や在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。

2. 在宅療養者とその家族を対象とする看護方法が理解できる。
3. 訪問看護ステーションの成り立ちと機能が理解できる。
4. 在宅ケアチームとその中での看護の役割が理解できる。
5. 訪問看護師に求められる態度と責任が理解できる。

#### III. 実習スケジュール

本学の在宅看護学実習の実習期間は2週間である。4年次前期の実習であり、2020年6月～10月にかけて、全て学内で実施した。実習人数は、1グループを3～5名の学生で構成した24グループで、合計85名であった（表1）。

#### IV. 実習目標を達成するための取り組み

1. 在宅看護の場や在宅療養者とその家族の特徴を理解する取り組み  
4つの事例の訪問看護場面のDVDを視聴した。そのうち3事例は教材<sup>2-4)</sup>のDVDである。もう1事例は、実習受け入れ先の1つのステーションと訪問先の家庭

1) 群馬バース大学保健科学部看護学科

表1 実習スケジュール

| 週       | 曜日 | 実習内容  |
|---------|----|---|
| 1<br>週目 | 月  | 【オリエンテーション】<br>受け持ち療養者決定と模擬カルテ配布<br>受け持ち療養者の疾患や看護について自己学習<br>訪問看護ステーションのオリエンテーション<br>動画の視聴<br><br>訪問看護場面と療養者家族へのインタビュー<br>動画の視聴 |
|         | 火  | 【看護過程の展開】<br>情報収集   |
|         | 水  | 【看護過程の展開】<br>アセスメント   |
|         | 木  | 【看護過程の展開】<br>看護問題の抽出  |
|         | 金  | 【グループワーク】<br>受け持ち療養者の情報共有と看護計画の妥当性について  |
| 2<br>週目 | 月  | 【社会資源調べ】<br>受け持ち療養者の利用している社会資源についてまとめる  |
|         | 火  | 【DVD 視聴とグループディスカッション】<br>訪問看護の3つの事例<br>・慢性呼吸不全症の在宅酸素療法<br>・脳梗塞後遺症のリハビリ<br>・ヒルシュブルング病根治術後  |
|         | 水  | 【DVD 視聴とグループディスカッション】<br>・退院前会議<br>・サービス担当者会議<br>・地域ケア会議  |
|         | 木  | 【まとめ発表会の準備】<br>パワーポイント作成と発表練習<br>(社会資源調べと在宅看護実習での学びについて)  |
|         | 金  | 【まとめ発表会】<br>社会資源調べと在宅看護実習の学びの発表   |

の協力を得て、実際に教員が同行訪問を実施し、撮影した訪問看護場面のDVDである。教員が撮影したDVDの使用は、学生が訪問開始から終了まで編集されていない場面を視聴することによって、同行訪問をしているかのようなリアリティを実感出来るようにするためである。しかし、DVDの視聴では、通常の実習のように看護師から看護のポイントなどが語られない。したがって、教員が看護行為の意味についての丁寧な補足をしながらDVDを視聴した。さらに、学生が注目して見るべき視点を整理した記録用紙をあらかじめ作成し、それに沿って視聴しながら学んだことを記入

することで、少ない訪問看護場面の見学から学生がポイントを拾い上げやすいようにした。

また、同事例の主介護者の協力を得て、療養者家族の思いをインタビュー形式で語ってもらい、撮影したものを視聴した。内容は、療養生活と入院生活で感じる相違点、介護者としての苦勞、自らの生活で気を配っている点、主介護者以外の家族の関わりの様子、サービス業者に対する思い、学生へのメッセージである。通常の実習では、学生がご家族とコミュニケーションをとりながら、介護者の思いを学ぶことになる。今回は、その代わりにご家族へのインタビューで思いを知る機会とした。

## 2. 在宅療養者とその家族を対象とする看護方法を理解する取り組み

教員が模擬事例のカルテを12例作成した(表2)。医療保険と介護保険での訪問看護の事例を用意し、小児や難病疾患といった特徴的な事例も作成した。グループ学生間でお互いの受け持ち療養者について情報共有をすることにより、様々な療養者の看護について考えられるようにした。学生がリアリティを実感できるように、カルテは本物に近づけて作成し、患者情報、訪問看護指示書、訪問看護計画書、訪問看護報告書、日々の看護記録(1~2ヶ月分)、退院時サマリー、サービス計画書、退院時共同指導加算用紙等の考え得るものを個別に反映して作成した。学生は1人につき1事例を受け持ち、情報収集から看護計画立案までを実践した。看護過程の展開を個人で行った後に、グループ学生間にて受け持ち療養者の情報共有を行い、抽出した看護問題の妥当性、個別性のある看護計画となっているかについて学生同士で検討した。

また、例年の実習において学生は、在宅療養者と家族を支援するための社会資源の活用についての理解が難しいと述べていた。したがって、今回の実習においては、受け持ち事例が利用している社会資源についてまとめるワークシートを作成した。学生は、受け持ち事例が利用している社会資源についてワークシートにまとめる作業を行った後、さらにグループで1つ社会資源の中で興味を持ったものについて調べ学習を行い、3~5グループでの発表会で学びを共有した。

## 3. 訪問看護ステーションの成り立ちと機能を理解するための取り組み

実習受け入れ先の2つのステーションの協力を得て、

表2 受け持ち療養者事例

| 年齢   | 性別 | 疾患名                  | 医療保険／介護保険の別 |
|------|----|----------------------|-------------|
| 80歳台 | 男性 | 肝細胞がん 左肺転移           | 医療          |
| 40歳台 | 男性 | Ⅱ型糖尿病                | 医療          |
| 70歳台 | 男性 | アルツハイマー型認知症 慢性心不全 褥瘡 | 介護          |
| 60歳台 | 男性 | 脳梗塞後遺症 高血圧 脂質異常症     | 介護          |
| 80歳台 | 男性 | パーキンソン病 大腿骨頸部骨折術後    | 医療          |
| 50歳台 | 男性 | 脊髄損傷                 | 医療          |
| 10歳台 | 男性 | 急性脳症後遺症 下垂体機能低下症     | 医療          |
| 70歳台 | 男性 | 大腸がん ストーマ造設後         | 介護          |
| 90歳台 | 男性 | 横行結腸がん末期 ストーマ造設後     | 医療          |
| 1歳   | 女性 | 18トリソミー              | 医療          |
| 4歳   | 女性 | 細菌性髄膜炎後遺症            | 医療          |
| 80歳台 | 女性 | アルツハイマー型認知症          | 介護          |

通常の実習で実施している訪問看護ステーションのオリエンテーションを動画で視聴した。2つのステーションのオリエンテーションDVDを準備したのは、地域によってステーションに求められる機能が異なる点について理解を深めるためである。したがって、学生が理解しやすいように、違う市に位置して周辺地域の状況が大きく異なるステーションに協力を依頼した。

#### 4. 在宅ケアチームとその中での看護の役割を理解する取り組み

在宅看護における多職種連携については、退院前カンファレンス、サービス担当者会議、地域ケア会議についてのDVD教材<sup>5)</sup>を視聴した。3つの会議では、それぞれどのようなケアやサービスが考えられるのかについて問題提起されており、DVD視聴後にグループ学生間でカンファレンスを実施した。カンファレンス後に再度DVDを視聴し、どのようなケアやサービスの一例が考えられるのかについて確認した後、学生の考えはどうであったのかを振り返って、今後の自らの課題についてグループごとに話し合った。

#### 5. 訪問看護師に求められる態度と責任を理解するための取り組み

通常の実習のように、実際に訪問看護師に質問を試みることができない中で、訪問看護師の思いを知るために2つの訪問看護ステーションの管理者に協力を得て、インタビューDVDを作成した。内容は、訪問看護師として普段から心がけていることややりがい

についてである。学生はDVDの視聴を通して、訪問看護師がやりがいをどのように感じているかや職務を全うするためにどのような努力を講じているのかについて学んだ。さらに、教員が撮影した訪問看護場面や既製のDVDによる複数の訪問看護場面の視聴を通して、訪問看護師に求められる態度やマナーについて学んだ。

## V. 今後の課題

出来るだけ臨地での学びに近づけられるようにオリジナルの事例を用いたり、既製のDVDと教員がステーションに出向いて撮影し準備したDVDを活用することでリアリティを持たせた実習内容になるように努めた。しかし、感染拡大の懸念が大きかった状況から、学生同士での接触を伴う看護計画の一部実施といったロールプレイを組み込むことが出来なかった。コロナ禍での新しい生活様式が浸透した現在では、警戒度に応じた感染対策を講じながらのロールプレイを組み込んだ看護過程の展開も実践できると考える。また、インタビューDVDではなく、オンライン形式で直接学生が訪問看護師に質問することが出来る機会の準備等があれば、学生と現場の双方向のやり取りが可能となり、学生がさらにリアリティを感じつつ主体的に学ぶことが出来たのではないかと考える。今後も、さらに試行錯誤をしながら、コロナ禍にあっても学生に実習の質が担保できる実習環境を作っていきたい。

## VI. 利益相反および倫理的配慮

本論文内容に関連する利益相反事項および倫理的配慮の必要な問題はない。

### 参 考 文 献

- 1) 文部科学省, 厚生労働省. “新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成施設等の対応について”. 令和2年2月28日付事務連絡. [https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)
- 2) 石淵夏子監修. 在宅看護ケーススタディー老夫婦で支え合う「快適生活」慢性呼吸不全症の在宅酸素療法. ビデオパックニッポン. 2001.
- 3) 石淵夏子監修. 在宅看護ケーススタディー人間らしい生活を願って脳梗塞後遺症のリハビリ. ビデオパックニッポン. 2001.
- 4) 石淵夏子監修. 在宅看護ケーススタディー悩みながらも成長する親子ヒルシュスプルング病根治手術後. ビデオパックニッポン. 2001.
- 5) 関川久美子監修. 高齢者の在宅における多職種連携 vol.2多職種連携から支援を考える. 東京. 医学映像教育センター. 2019.